

2014年度

E 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

 (3と解答する場合)

I. 次の文1～4を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 乙巳の変で蘇我氏が滅ぼされ、(イ)天皇が即位すると、中大兄皇子が中心となって、大化改新と呼ばれる政治の刷新が進められた。そのなかでも646年に出されたとされる改新の詔では、¹⁾皇族や豪族がそれぞれに土地や人民を支配する制度を改め、公地公民制を実施する大原則が示された。こうして民衆には耕作地として口分田が国家から支給されることとなった。もちろん改新の詔で発せられた内容がすべてこのとき実現できたわけではなく、口分田の支給については、飛鳥浄御原令が施行された翌年に(ロ)という戸籍がつくられ、これを基礎としてようやく確立した。以後の班田収授は、6年ごとに作成される戸籍にもとづき、実施された。このように、大化改新を始原として、天武・持統天皇の時代を経て、8世紀初頭までに中央集権的な国家機構や官僚制度が整²⁾備されていった。しかし公地公民制は班田収授の³⁾対象となる熟田の不足などから、すぐに行き詰まった。8世紀前半に出された三世一身法と墾田永年私財法という2つの法令⁴⁾によって、開墾地を私有する道が開かれたのである。このため、有力貴族や寺社、さらには地方豪族や有力農民までもが開墾に乗り出し、各地に大規模な墾田が開発された。地方豪族や有力農民などは、こうした墾田を有力貴族や寺社などに寄進するようになり、10世紀には各地に荘園が形成された。

2. 9～10世紀には公地公民制が崩れ、(ハ)が提出した「意見封事十二箇条」にもあるように、国家財政は窮乏し、地方政治も混乱した。902年には延喜の荘園整理令が出され、班田の励行もはかられたが、これ以後、班田収授は行われなくなった。そして政府は、納税を含めた地方政治を受領に一任するようになった。これを受けて受領は、(ニ)と呼ばれるすぐれた農業技術を持った有力農民に田地の耕作を請け負わせ、税を課した。また田地は名という徴税単位に分けられ、受領や荘園領主はこうした名を単位に課税した。『(ホ)』という日記を記したことで知られる藤原道長が政権を握ったことに象徴されるように、10世紀後半から11世紀頃の政治は、天皇の外戚として摂政・関白を歴任する摂関家が主導した。摂関家は、荘園からの収入を財政基盤の1つ⁵⁾としたが、こうした摂関家を外戚としない(ヘ)天皇が即位すると、延久元年に荘園整理令が出され、摂関家の荘園も整理の対象となった。10～11世紀には数回の荘園整理令⁶⁾が出されたが、延久の荘園整理令の場合は、荘園の由来や権利関係などを記した(ト)を審査する機関として、記録荘園(ト)所が設けられたことが特徴である。(ヘ)天皇の子である白河上皇が本格的な院政を開始し、その後も鳥羽上皇に

よる院政が続くと、院の権威が高まった。そのため院やその周辺に荘園の寄進が集中するようになり、たとえば鳥羽上皇が娘の八条院暲子に伝えた八条院領などのような天皇家領荘園群が形成されるようになった。⁷⁾

3. 鎌倉時代になって、全国の荘園に地頭が置かれるようになると、荘園領主と地頭、あるいは荘民などが対立することもみられた。承久の乱後は、隠岐に配流された(チ)上皇に味方した側の所領が没収され、その跡に地頭として多くの東国御家人が任命されたため、とくに西国などでは地頭と荘園領主との間で得金をめぐる紛争が多発した。こうした紛争は、幕府や六波羅探題に持ち込まれるようになり、和解の手段として土地を分割して相互の支配権を認める(リ)や、荘園領主が地頭から一定額の年貢を受け取る地頭請などが採用されるようになった。そうした対立が生じた背景の1つに、中世になって農業生産力が著しく上昇したことがある。鎌倉時代から室町時代にかけて農業技術が発達し、地頭や荘民を中心にして積極的な耕地開発が行われたため、農業生産力が向上した。そのため、これに伴う富を誰が手に入れるかを、荘園領主や地頭、荘民が争ったのである。13世紀になると、荘民は土地との結びつきを強め、地域的なまとまりである村落に結集して地域社会の主体的な勢力となった。1275年に紀伊国(ヌ)荘の荘民が、地頭である湯浅宗親の非法を、片仮名書きの訴状で13カ条にわたって荘園領主に訴え出たことも、その一例である。14~15世紀になると惣村と呼ばれる農民の自治組織が形成され、やがて戦国大名は、こうした惣村の地侍などを被官として軍事動員するようになった。さらに戦国大名のなかには新たに検地を行って、土地からの年貢量などを銭に換算した(ル)という基準で統一的に把握し、家臣にもそれにもとづいた軍役を求めるものもあらわれた。⁸⁾

4. 豊臣秀吉が行った太閤検地は、一地一作人の原則で耕作者を検地帳に登録して、その耕作権を確保し、戦国期までの多様な土地関係を整理したので、荘園制はこれをもって最終的に解体された。またこの検地では、村を単位に田畑・屋敷地の面積を測量した上で、戦国大名が用いた(ル)にかわって、米の量を基準にした石高を算出した。豊臣秀吉や、その後の徳川幕府は、田畑・屋敷地には、その石高に応じた本途物成、すなわち本年貢を賦課し、検地によって田畑・屋敷地とは峻別された山野河海の用益には(ヲ)を賦課した。(ヲ)は、江戸時代を通じて各地の特産物や商業にも賦課される場合があり、本途物成以外の雑税を意味した。こうして近世の農民は土地を確保したが、幕府や大名などは、年貢や夫役をきびしく課したため、農民の生活は困窮し、ま⁹⁾

た寛永の飢饉¹¹⁾が起きたことなどで、年貢収納が困難となる場合があった。この飢饉を経た後、18世紀半ばに至るまで、幕府はさまざまな農政を展開し、農民が没落するのを防ごうとした。しかし18世紀後半¹¹⁾になると、民衆の間に生じた経済的な格差は埋めがたく、天明の飢饉が引き金となって、将軍のお膝元である江戸でも大規模な打ちこわし¹²⁾が起きた。これ以後、幕府の老中は、さまざまな政策を実行し、民衆対策だけではなく、対外的な危機や逼迫する財政¹²⁾などにも対応することになった。さらに江戸では、儉約を徹底するなど、幕府の規制は庶民の生活やさまざまな文化活動¹³⁾にまで及ぶようになった。

A. 文中の空所(イ)～(ヲ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～13)にそれぞれ対応する次の問1～13に答えよ。

1. これに関する記述として正しくないのはどれか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 左大臣と右大臣の職が廃止となった
 - b. 蘇我倉山田石川麻呂が自殺に追い込まれた
 - c. 高向玄理と受が国博士となった
 - d. 難波長柄豊碕宮に遷都した
2. これに関する記述として正しくないのはどれか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 大嘗祭が即位儀礼として整えられた
 - b. 曇徴が絵の具や紙・墨の製法を伝えた
 - c. 薬師寺の建立が開始された
 - d. わが国最古の貨幣とされる富本銭が鑄造された
3. これに関する記述として正しいのはどれか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. 郡家(郡衙)が設けられ、田租を蓄える正倉が置かれた
 - b. 五位以上を指す公卿の子と孫には、蔭位の制が適用された
 - c. 太政官の下に神祇官と八省が置かれ、行政を分担した
 - d. 都からの道路が整備され、約4 kmごとに駅家が設けられた

4. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 三世一身法は、灌漑施設^{かんがい}を新たに設けて開墾した場合、3 世の間の田地の保有を認めた
 - b. 三世一身法は、長屋王政権の下で、百万町歩開墾計画が立てられた翌年に出された
 - c. 墾田永年私財法は、郡司であれば位階に関係なく広大な面積の田地を開墾することを認めた
 - d. 墾田永年私財法は、橘諸兄政権の下で、政府の掌握する田地を増加することで、土地支配を強化する目的もあって出された
5. これに関する出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. 宇多天皇は摂政・関白を置かず、菅原道真を登用した
 - b. 光孝天皇は藤原基経を実質的に関白とした
 - c. 藤原忠平が朱雀天皇の摂政・関白となった
 - d. 藤原頼通が約 50 年にわたって摂政・関白をつとめた
6. この時期に関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 今様などの歌謡集『梁塵秘抄』が編纂^{さん}された
 - b. 菅原孝標女が『更級日記』を著した
 - c. 平仮名や片仮名の字形がほぼ一定した
 - d. 藤原明衡が漢詩文集『本朝文粹』を編纂した
7. これを経済基盤とした上皇と皇統名の組み合わせとして正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 龜山上皇—持明院統
 - b. 龜山上皇—大覚寺統
 - c. 後深草上皇—持明院統
 - d. 後深草上皇—大覚寺統

8. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 刈敷や草木灰などの肥料が利用された
 - b. 畿内などで、麦を裏作とする二毛作が普及した
 - c. 牛馬の農耕への利用がすすんだ
 - d. 深耕用の備中鋤が普及した
9. これが制定した分国法（いずれも抜粋。一部表記を改めている）に該当しないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 朝倉が館のほか、国内に城郭を構えさせまじく候。惣別分限あらん者、一乗谷へ引越、郷村には代官ばかり置かるべき事。
 - b. 喧嘩の事、是非に及ばず成敗を加ふべし。但し、取りかかるといえども、堪忍せしむるの輩においては、罪科に処すべからず。
 - c. 新儀の城郭構営堅くこれを禁止す。居城の隍塁・石壁以下敗壞の時は、奉行所に達し、その旨を受くべきなり。
 - d. 百姓、地頭の年貢所当相つとめず、他領へまかり去る事、盗人の罪科たるべし。
10. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 阿波の藍玉と出羽村山の紅花が染料として利用された
 - b. 紀州みかんや甲州ぶどうといった果物が生産された
 - c. 薩摩藩の専売品となった伊万里焼が、長崎から輸出された
 - d. 名産品の生産現場を紹介した『日本山海名産図会』が刊行された
11. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 質流れ禁令が出された後、幕末まで土地の質流れは禁止された
 - b. 1643年に田畑永代売買の禁令が出され、1872年まで解かれなかった
 - c. 町人の資本による新田開発を奨励し、耕地の拡大をはかった
 - d. 名主であった田中丘隅を代官に登用し、堤防や用水を整備させた

12. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 松平定信は、印旛沼と手賀沼の干拓事業に着手した
- b. 松平信明は、人参座を設け、朝鮮人参の専売を始めた
- c. 水野忠成は、金・銀の含有率を下げた貨幣を発行した
- d. 水野忠邦は、上知令を出して、江戸と長崎周辺の私領を幕領に編入した

13. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 恋川春町が著した『修紫田舎源氏』が刊行され、人気を博した
- b. 須原屋茂兵衛が版元となって、喜多川歌麿や東洲斎写楽の浮世絵が出された
- c. 地方の有名寺社が江戸で行った居開帳には、露店などが建ち並んだ
- d. 都市の民衆は、寄席で演じられる落語や講談などを楽しんだ

II. 次の文1・2を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 17世紀後半に成立した徳川綱吉の政権のもとで、元禄時代の幕が開いた。元禄時代の文化の1つとして、儒学¹⁾の隆盛を指摘することができる。朱子学や陽明学²⁾など儒学思想が日本社会に与えた影響は大きい。こうした儒学思想と関連が深い学問として、経世論を挙げる事ができる。経世家としても知られる荻生徂徠³⁾は、古文辞学派の儒学者でもあった。徂徠は『(イ)』を著し武士の土着論³⁾を展開し、また徂徠門下の<あ>は『経済録』や『経済録拾遺』を著し武士の商業活動の必要性を説くなど、その積極的な政治経済への発言がその後の経世論⁴⁾発達の礎となった。

このように経世論は儒学をその思想基盤としつつ、日本独自の政治経済の課題解決に取り組むことを目指した。元禄文化⁵⁾は、幕政の安定による経済の発展によってもたらされた。そのことは、少なからず⁵⁾当時の儒学者のなかに、政治経済の安定と発展を願う思いを強くさせた。しかしそうした経世家の願いもむなしく、田沼時代⁶⁾を経て徐々に幕藩体制そのものに陰りが見え始めると、経世論の主張は次第に⁶⁾変容することとなる。

そもそも経世論は、「世を治め民を救う」の意である経世済民の学問として誕生した。よって、経世論が経済の発展を合理的に突き詰めていくなれば、封建制度を基盤とする幕藩体制⁷⁾そのものへの否定は不可避となってしまうことになる。18世紀後半になると経世論は、さらなる経済の発展(商品経済の容認)を志向しつつも、当時の政治の安定(封建制度の維持)を前提とした内容となっていく。

こうした矛盾を内包したまま、次第に列強の接近⁸⁾への対応が政治課題として浮上すると、経世論の主張は重商主義的な色合いを強めていった。たとえば、<い>は『経世秘策』を著し外国貿易による富国策の必要性を、また佐藤信淵⁹⁾は産業の国営化と貿易による振興策の必要性をそれぞれ説いた。

2. 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、新たに開放経済体制のなかで急速な経済成長を実現し、経済大国への道を歩みだすこととなった。

高度経済成長期に日本経済は年平均10%を超える成長率を実現した。日本は国際通貨基金(IMF)8条国への移行を果たすと、<う>年には国民総生産(GNP)¹⁰⁾が資本主義国のなかで第2位となった。また日本政府による発展途上国への資金供与である<え>も急増し、1980年代には供与額が世界最大規模となった。日本経済のこうした急速な成長は生産の増大に支えられていたのだが、それを可能としたのが国内市場と輸出の拡大であった。しかしこのことは、日本経済の外と内に、のちに深刻な問題を

生みだす結果へとつながる。

各国の変動為替相場制への移行を経てもなお、1980年代のアメリカ経済は、巨額な貿易赤字とく¹¹⁾お¹¹⁾赤字という「双子の赤字」によって、その世界的な信用に陰りを見せ始めていた。1985年の先進5カ国財務相・中央銀行総裁会議（G5）において為替市場への協調介入が合意されると、日本経済は輸出産業を中心に不況が一時深刻化した。¹²⁾

しかし日本は、これを契機に低金利政策や内需拡大政策、経営の合理化を推し進め、いっそうの欧米諸国への輸出拡大によって局面打開をはかった。その結果、対米貿易黒字はさらに増大した。これに対しアメリカは日本経済の制度・慣行を不公正であると問題視し、市場開放による貿易不均衡の是正を強固に要求するなど、対日批判を強めていた。¹³⁾

日本企業は貿易摩擦を回避すべく対外直接投資を急増させ、欧米市場の確保を目指した。こうした企業は多国籍企業と呼ばれ、その投資は欧米諸国だけでなく発展途上国にも向けられた。発展途上にあつた国や地域のうち、のちにアジアNIEsと称される韓国・く¹⁴⁾か¹⁴⁾・台湾・香港は、外国資本・技術の導入を積極的に進め、輸出志向型の工業化によって急激な経済成長を実現した。こうした工業化政策はASEAN諸国にも様々な影響を与えた。また対外直接投資の急増によって、日本では製造業を中心に国内産業の（ロ）現象が起こつた。

貿易黒字の巨額化と国内設備投資の停滞は、日本経済に行き場を失つた余剰資金を発生させた。そうした資金が株や土地の購入、海外不動産投資に向けられると、1980年代後半から日本の株価と地価は異常な高騰を始めた。バブル経済の到来である。企業や金融機関は、株式や土地を投機的に買ったり、資金の貸し付けを積極的に行ったりした。しかし、資産や所得の急激な格差拡大を懸念した政府や日本銀行が土地への融資規制や金利引き上げを行ったために、一転して株価と地価は暴落しバブル経済は崩壊に至つた。

その結果、マネーゲームに奔走した企業の倒産や不良債権を抱えた金融機関の破綻が重なり、バブル崩壊後の不況が深刻化していった。各企業が生き残りをかけて、事業整理や人員削減、海外進出などを積極的に推進すると、大量失業や雇用不安が家計の消費を冷え込ませてしまい、かえつて不況を長期化させる結果へとつながつた。こうしたなか、相次ぐ住宅金融専門会社の破綻に対処すべく、1996年には（ハ）内閣が国の財政資金を投入する法案（住専処理法案）を成立させるなど、歴代の内閣は不況問題への対応に苦慮しつづけた。この不況は、金融逼迫^{ひっばく}が実体経済の不況に波及したことから複合不況とも、また1991年から顕著になつたことから平成不況とも呼ばれる。

こうした過熱した景気が実態とかけ離れていく一連の過程は、過去にも繰り返されて

きた。たとえば、第一次世界大戦による大戦景気とその後の戦後恐慌がそれにあたる。¹⁵⁾
その意味では、残念ながら歴史の教訓は充分には生かされなかったといえよう。

A. 文中の空所(イ)～(ハ)にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- (イ) a. 聖教要録 b. 政談 c. 大学或問 d. 本朝通鑑
(ロ) a. 過密化 b. 系列化 c. 空洞化 d. 集積化
(ハ) a. 小淵恵三 b. 橋本龍太郎 c. 細川護熙 d. 村山富市

B. 文中の空所<あ>～<か>それぞれにあてはまる適当な語句または数字をしるせ。

C. 文中の下線部 1)～15)にそれぞれに対応する次の問 1～15に答えよ。

- この人物は、林家が上野忍ヶ岡に設けた孔子廟と私塾を別の場所へ移した。その移転先はどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 浅草 b. 蔵前 c. 深川 d. 湯島
- この学派の儒学者は誰か。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 新井白石 b. 熊沢蕃山 c. 林羅山 d. 藤原惺窩
- この人物が江戸に開いた私塾はどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 護国塾 b. 古義堂 c. 洗心洞 d. 藤樹書院
- これを同じく説いた『稽古談』の著者は誰か。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 海保青陵 b. 工藤平助 c. 佐久間象山 d. 林子平
- この文化を代表する文学作品でないのはどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 浮世風呂 b. 笈の小文 c. 心中天網島 d. 世間胸算用
- この時期に行われた政策に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
a. 株仲間を広く公認する代わりに、運上金・冥加金などを上納させた
b. 治安対策として石川島に人足寄場を設け、無宿人に職業技術を授けた

- c. 南鐮二朱銀などの計数銀貨を鑄造し、銀を中心とする貨幣制度の確立を試みた
d. 最上徳内が中心となって、蝦夷地の開発やロシアとの交易から実利をあげた
7. この社会の身分制を批判した『自然真営道』の著者は誰か。次の a ~ d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 安藤昌益 b. 富永仲基 c. 三浦梅園 d. 山片蟠桃
8. ロシアによる接近に関する出来事 a ~ d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. グローニン事件
b. プチャーチン来航
c. ラクスマン来航
d. レザノフ来航
9. この人物の著作でないのはどれか。次の a ~ d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 宇内混同秘策 b. 経済要録 c. 西域物語 d. 農政本論
10. これと同年の出来事はどれか。次の a ~ d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. LT貿易の調印
b. GATT (関税及び貿易に関する一般協定) 11 条国への移行
c. 経済協力開発機構 (OECD) 加盟
d. 世界銀行 (国際復興開発銀行) 加盟
11. これ以前の日本は固定為替相場制を採用していたが、1ドル=360円の単一為替レートが設定された時の内閣総理大臣は誰か。その名をしるせ。
12. これに関する次の問 i・ii に答えよ。
- i. G5 は後に G7 となるが、その時新たに加わった国の 1 つとして正しいのはどれか。次の a ~ d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. イタリア b. オランダ c. スイス d. ベルギー
- ii. G5 で合意された為替の協調介入の結果として正しいのはどれか。次の a ~ d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. ドルに対して、円高とマルク高が進んだ
b. ドルに対して、円高とマルク安が進んだ
c. ドルに対して、円安とマルク高が進んだ
d. ドルに対して、円安とマルク安が進んだ

13. これを受けた日本政府の取り組みについて、もっとも古いものから年代順に並んでいる組み合わせはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 日米構造協議の開始→牛肉・オレンジの輸入自由化の決定→日米半導体協定の締結
 - b. 日米構造協議の開始→日米半導体協定の締結→牛肉・オレンジの輸入自由化の決定
 - c. 日米半導体協定の締結→牛肉・オレンジの輸入自由化の決定→日米構造協議の開始
 - d. 日米半導体協定の締結→日米構造協議の開始→牛肉・オレンジの輸入自由化の決定
14. この発足時の加盟国でないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. インドネシア
 - b. タイ
 - c. フィリピン
 - d. ベトナム
15. これに関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 外国からの輸入に依存していた染料・医薬品・肥料などの化学工業が発展した
 - b. 船舶需要の急増により造船業や海運業とともに製鉄業も発展した
 - c. 中国からの輸入が途絶えた後のヨーロッパ市場へ向けて綿糸・綿布の輸出が増加した
 - d. ヨーロッパへの軍需品輸出で好景気となったアメリカへ向けて生糸の輸出が増加した